



二十六聖人

令和2年10月号

(令和2年9月27日発行)

教会だより

2020. 10 No. 329

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296
<http://www.futamatagawa-cc.com/>
主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

わたしを動かすのは何？

いよいよ10月になり、教会はロザリオの月を迎えました。10月は特に、ロザリオの祈りを通して聖母マリアの執り成しと助けを求めることが勧められます。イエス様において、聖母はご自分に人間の命を与えてくれた大事なお母さまで、ある意味では、マリアがいなければ、イエス様はお生まれにならなかったと言えるほどです。

その聖母の影響に関して聖書には、ガリラヤ地方のカナの婚宴の箇所がよく記されています。葡萄酒が足りなくなり、もう結婚式の喜びも幕を下ろさねばならない状況の中で、その困りは人々によって聖母に伝わりました。聖母マリアはそれをイエス様に告げましたが、イエス様は「夫人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。」とお答えになり、意外と冷たく見えるような気がします。しかし、聖母マリアは人々に「この人が何か言いついたら、その通りにしてください。」と言いました。その後、一見、冷たいようだったイエス様は、水をぶどう酒に変え、しかも、前よりもっとおいしいものを与えて、その貧しい夫婦と多くの人たちに新しい喜びをもたらしてくださいました。

もしかすると、その困りを聞いた聖母マリアはただの人間的な同情心から、イエス様にそれを告げたかもしれません。でも、ご自分とのかかわりを話されたイエス様の話を聞いてから、「この人が何か言いついたら、その通りにしてください。」と言い、イエス様に従う人の正しい姿勢を見せてくれました。その聖母の話は一言で「アーメン。」でしょう。アーメンとは、自分の心や本能、経験や知識ではなく、信仰に基づいてすべてを神様に任せる姿勢で、神様の霊の導きによって動く人が備えるべき真の様子でもあります。また、これは神様と隣人に向かう愛から生じるもので、信仰のある人々はその愛によっても動かさねばなりません。実際、イエス様も、聖母もその愛によっても動かされ、共に十字架の道を歩んで、神様に従うことを学びました。私たちも同様です。

さて、新型コロナウイルスという今皆が経験しているこの病気は、私たちの普段の生活を幅広く変えています。それに止まらず、内面にも大きな影響を与えている気がします。それで、もしかすると、この厳しい状況が長くなればなるほど、私たちが動かすのが、様々で個人的な基準や気持ち、考えや習慣であってしまふ恐れを感じています。それを考えながら、わたしは、特に、私たちの思い、言葉、行いを神様が導いてくださることを祈り求めます。また、私たちがイエス様と聖母マリアのように、ただ、愛の霊によって動かされることをも願います。今月のロザリオの祈りの中で、信者の皆さんの日々が、神様の愛の証となることができるように、お祈りいたします。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求

2020年9月教会委員会報告

【司祭】

地区ミサは何とか軌道に乗りつつあります。11月末まではこの状態で行き、待降節になって状況が許せば複数の地区と一緒にミサを行うことにより、信者の皆さんがミサにあずかれる機会を増やしたいと思っています。

今までは地区とミサ対策チームに奉仕をお願いしていましたが、教会委員会も信者を励まし、繋がりを維持するためにもミサの奉仕に加わってもらいたいと思います。一緒に現場にいることで心が通じ合うのです。さらにはこの体制が確立できれば奉仕者のうちから朗読等もお願いすることも考えています。

【今月の検討項目】

1. 9月以降地区別ミサについて

・教会委員サポートに関する説明

ミサの奉仕者を9月から地区より7⇒5名、ミサ対策チーム3名変わらず、教会員会1名とすることが確認されました。（理由）教会委員会からも奉仕に参加することで教会の一体感の醸成（前述の神父様の言葉参照）。9月12日土曜日から実施します。教会委員会終了後対象者で具体的なローテーション及び作業内容を確認しました。

・指定献金の実施要領説明

年末までに指定献金4回、年末福祉献金1回（バザー代替）の5回の献金があります。内1回は実施せず教会財務より支出するので4回の指定献金をミサー巡毎に行います。最低金額を決め、不足分は教会財務より支出します。（昨年実績の最低金額を基準とします。）

年末の福祉献金についてはバザーに代わる献金方法の検討及び献金先の配分等を含めて、福祉委員会を主に検討を継続することが確認されました。

・YouTube 配信に関して

本日（9月6日）より11時のミサを夕方配信します。現在2名で対応していますが人数的に厳しい。サポートが必要です（できれば関連スキルのある人）。広報委員会と協力しながら実施しますが、教会としてもサポートしていきます。

2. 敬老の日お祝い進捗報告

敬老対象者293名、内米寿14名、喜寿23名。最高齢者はH. Y. 様（97歳）。神父様が訪問。お祝いのカード及び特に米寿と喜寿の方々には記念品を郵送しました。

【その他の検討・確認事項】

1. 事務所、委員会・信徒会

① 典礼委員会

- ・死者の日のミサが非公開となったことに伴い、この1年間に亡くなった方々の写真を聖母像の前に置く等の検討をしています。（神父様、事務所と相談中）
- ・献金箱の一つを指定献金として平日も置くことが確認されました。
- ・10月はロザリオの月

②教会学校

- ・ 9月から第四日曜日 14時から教会学校と青年たちが共に捧げるミサを実施します。
9月27日、10月25日、11月22日。
特に11月22日は初聖体のミサ（初聖体 小学生4名、中学生2名）。コロナ対策はリーダーを主体に通常のミサのレベルを維持します。
9月から次の日程で初聖体の準備の勉強を開始します。
9月10日、27日、10月11日、25日、11月8日、15日（ゆるしの秘跡）

③キリスト教講座

- ・ 8月6日、S. S. さんが受洗されました。お祈りをお願いします。
- ・ 今年の堅信は延期となりましたが、堅信の勉強会を月一回行っています。

④財務委員会

- ・ 来年度の予算は例年のように各委員会に予算案を提出してもらうのではなく、神父様と相談しながら案を作成することを考えています。

⑤広報委員会

- ・ 「二十六聖人」9月号は休刊しました。10月号はレターケースに入れるのではなく、平積みしたものをホール等に置くことで対応したいと思っています。（印刷部数など事務所と相談）

⑥福祉委員会

- ・ 「二十六聖人」等を使って信徒の皆さんに献金先の理解を深めてもらうことを考えています。

⑦建物管理委員会

- ・ マリア像のコーティング、男子トイレの換気扇及び女子トイレのブラインドの補修をしました。

⑧共同墓地管理委員会

- ・ 11月3日 10時半より上大岡共同墓地において追悼ミサ（非公開）が行われます。録画したものを後日YouTubeにのせることを検討しています。

⑨マリア会

- ・ 献金を目的に実施する物品の販売に対して、教会委員会としての考えを教えてください（検討）。
- ・ ポリビア支援グループのジャムの在庫について販売方法の相談（継続検討）。

⑩青年会

- ・ 青年のライングループの活動が紹介されました。教会学校と共同でミサを行います（前述）。

【終わりの祈り、司祭】

今、教会の活動が制約されている中で、状況をよく見つめて物事を判断しなければなりません。今まで以上に心のつながりが大切になっていると思います。心を一つにするということは大変難しいことだと思っています。イエス様ならばどうなさるかという視点でものを考えて行動するとよいでしょう。イエス様の御心に自分の心を合わせる事が大切です。神様のお導きにより活動を再開することができれば良いと思っています。

以上

敬老のお祝い ～集えずとも繋がるために～

誠に残念なことですが、9月13日に予定されていた「敬老の集い」は中止となりました。やむを得ないことではありますが、毎年この日を楽しみになさっている対象の皆様は、大変寂しいお気持ちになられたのではないのでしょうか。

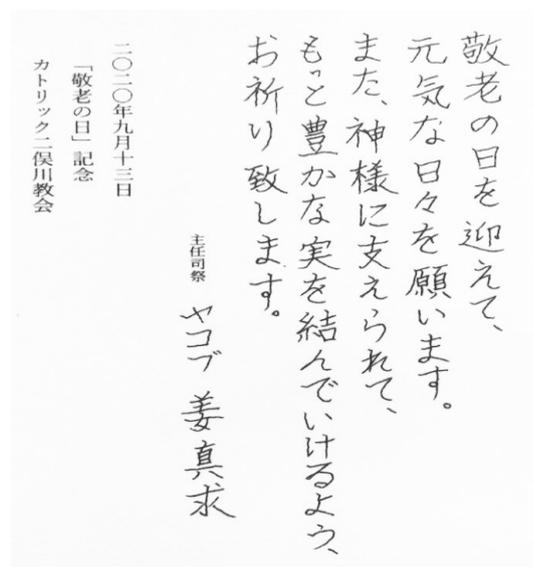
少しでも私たちの気持ちを届けるために、今年は、敬老の集いの対象者である77歳以上の皆様へ、神父様の直筆のメッセージが書かれたみことばカード・教会学校の子供達からのプレゼント(子供たちがそれぞれ「好きなお祈りや聖歌…その理由」を葉っぱに書き、それをひとつにまとめた『おいのりの木』のプリント)・教会からの挨拶文を、郵送させていただきました。

喜寿・米寿の皆様へは、記念品も同封いたしました。郵送にて記念品を受け取られた皆様からは次々に「教会になかなか行けないので皆さんが覚えていてくださってとっても嬉しかった」「教会の皆様と教会学校のお子さん達によろしくお伝えください」「77歳を実感しました。みことばにならい、いつも感謝しながら生きていきたいです」などなど、喜びと感謝のお声をいただきました。

また、二俣川教会最高齢のベルナデッタ H. Y. 様の元へは、姜神父様が訪問してお祝いをしてくださいました。御年97歳でいらっしゃいますがお元気で、満面の笑みでお迎えくださり、お祝いを大変喜んでくださいました。神父様が訪問され、共に祈りを捧げ、ご聖体拝領されるだけで素晴らしいことです。しかしそれだけではなく、神父様からの「私と教会のためにお祈りをしてください」というお願いが、皆様の日々の"活力"になっていることを知り、あらためてこうした訪問の大切さを実感いたしました。

そして、9月12日からの地区ごとのミサの中で特に、喜寿・米寿を迎えられた皆様を記憶し、お祝いと感謝の意向でミサを捧げています。共にお祈りいたしましょう。準備をお手伝いくださった皆様、ありがとうございました。

教会委員会 マリア・ローザ O. Y.



神父様から贈られたカードです



マリア会通信 No. 109

厳しい暑さが続いた今年の夏でしたが、夕方になって聞こえる虫の音に秋の訪れを感じるころとなりました。教会でお会いする事が難しい日々ですが、このような状況が早く終わるよう皆さまと共に祈りたいと思います。

ボリビア支援グループからの報告を下記いたします。

マリア会 H. I.

コロナウイルス感染が全世界に拡大し、人々の生活が一変しました。ミサをはじめ、教会での活動も制限または中止されています。私達が支援しているボリビアの乳児院の子供達への献金も、コロナ禍でなければ、6月下旬に「ボリビアデー」を開催し、シスターにお渡しするはずでした。

ボリビアは日本以上に厳しい状況で、シスター方をはじめ、スタッフの皆さんが乳児院の子供達の生活を守って下さっています。国の援助も無いに等しく、何とかして献金を送る事ができないかをシスターにご相談したところ、銀行振り込みが可能だと分かり、早速送金の手続きをいたしました。

アンナ会	57,187 円
ゆりの会	85,000 円
ボリビア支援グループ	219,783 円
合計	361,970 円



乳児院の子供達の可愛い笑顔 →

アンナ会、ゆりの会の方々のご奉仕、ボリビア支援グループが「のんびり日曜日」で販売したジャム、おにぎりなどを信徒の皆様がご購入下さった献金です。

神父様、信徒の皆様のご理解、ご協力に深く感謝いたします。

その後、献金を子供達がオンライン授業に必要なパソコン購入に充てたとの連絡がありました。子供達の教育に役立つ事はとても喜ばしい事です。

コロナ禍で、活動がままならない状況ではありますが、シスターからのお礼状にあった、「これからもよろしく願います」というお言葉を受けて、どうすれば支援を継続できるかを模索しています。コロナ禍で、キリスト者として今何ができるか、何をすべきかを考えて参りたいと思います。

ボリビア支援グループ K. A.

ミサの録画配信について

9月6日(日)より、主日の11時ミサを録画し、同日の18時に配信するという取り組みが開始されました。この録画配信は、今後のごミサ生中継を目指す準備と位置づけられていますが、毎回の配信を担当者と広報で見直し、配信を見ましたという信徒の皆さまのご意見を取り入れて、よりよい録画配信になるように鋭意努力を続けているところです。

今、私たちは月1回、地区ごとのミサに与っている状態ですので、その地区以外の方々は、毎週配信されるこのミサ録画をご覧ください、共に祈る場に、また、聖書を黙想する機会にしていただければと神父様は願っておられることでしょう。

二俣川教会のホームページを開くと「ミサ録画配信」という画面が出ますので、そこをクリックしていただければすぐにミサをご覧ください。どうぞ画面でミサにご参加いただき、ご意見等がございましたら、教会までお寄せください。

ミサの配信に関して、ご協力いただいているすべての皆様に感謝しておりますが、何分にも人手が足りません。教会の特に若い方々、どうぞお手伝いをお願いいたします。

広報委員会

15年間の広報活動から退くにあたって(編集後記)

コロナ禍によるステイホームの推奨でその副産物と言うべき「オンライン診療」とか「オンライン授業」とか、多くの「オンライン〇〇」が生まれましたが、先日「オンライン広報委員会」なるものを開きました。一部のメンバーにはZoom(ウェブ会議システム)の経験があったものの、広報では初めての試みでした。果たして首尾よくいくのかと心配したのですが、それぞれの自宅からメンバー5人がPC、スマホの画面で一同に会して40分ほどのミーティングがまずは楽しくできました。

またご承知のように9月6日の主日ミサからミサ録画配信が始まっています。いずれはライブ配信も予定されていますが、正しくこれは「オンラインミサ」と称してもいいでしょう。ライブ配信は同時的に聖体の秘跡に参加していると考えれば、実際に教会でミサに与る信徒だけでなく、ネット上にいる多くの信徒が共に霊的な聖体拝領に与っていることになり、典礼上にも意義あるものだと思います。

ところで、私が広報のお手伝いを始めたのは、2005年(ジャック神父様の赴任された年)です。あの当時からすでに広報誌の編集にはPCとか電子メールを使っていたのですが、まだ教会HPは無かったと思います。現在のウェブ版の「二十六聖人」やミサ画像の配信など、当時は今のようなネット社会をととても想像できなかつたことです。いわんや「オンライン広報委員会」をやです。

最後に私事になりますが、広報委員を今年末で引退することになりました。教皇フランシスコはかつて「世界広報の日」に『教会の扉を開いていることは、デジタル世界の扉を開いていることと同じです。大胆にデジタル世界の市民になって新たな活力と、創造力をもって神の素晴らしさを、他者と分かちあうことができますように。』と言われました。

まさにわが二俣川教会も、ここにきてようやくその扉が開き始めたかな、と感じつつ、あとは若い世代にまかせて退くべし、と意を決しました。2005年以来15年という長きにわたって非力ながらも広報活動をさせていただきました。皆さまには大変お世話になりました。感謝申し上げます。
(K. B. 記)